新城市・加原遺跡

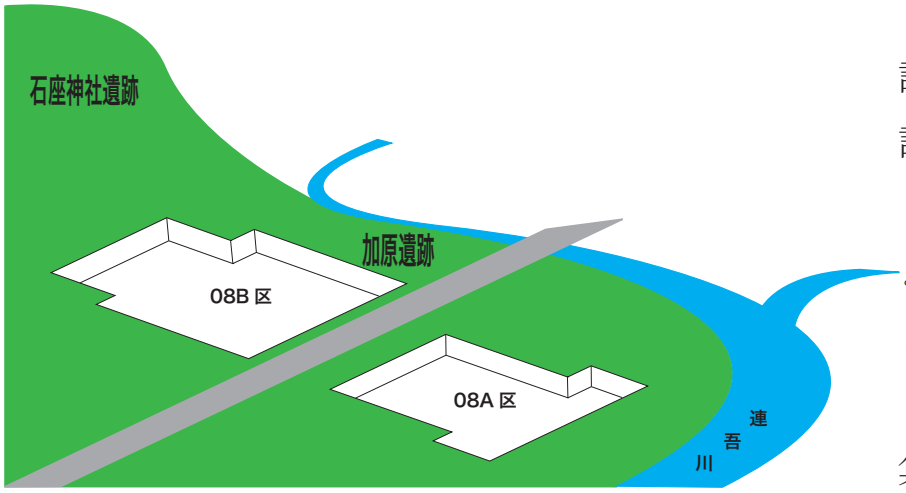
地元説明会資料

2008年11月15日

愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
国際文化財株式会社
中日本高速道路株式会社豊川工事事務所新城東工事区
新城市建設部高規格道路課
新城市教育委員会文化課

東からみた加原遺跡08B区（第２検出面）

①調査の概要



加原遺跡 08 調査区の位置概念図

発掘調査は第二東名高速道路建設にともなうもので、7 月より 2 調査区で実施しています。

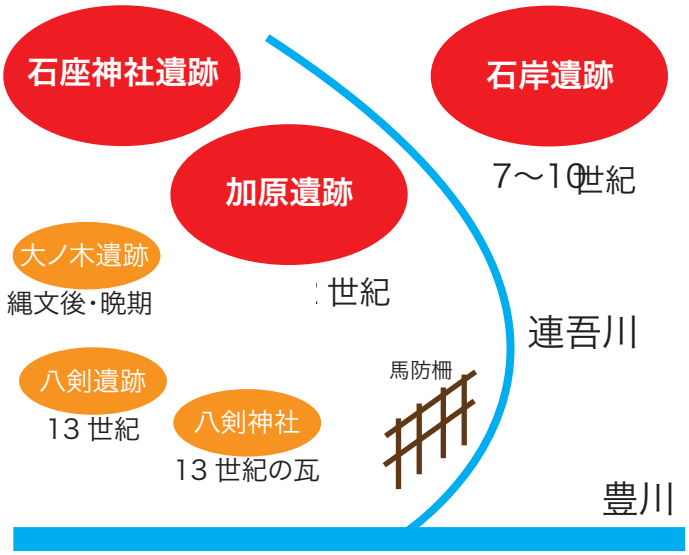
08A 区は、川の氾濫原であったようです。明治時代には「川原」と地名表記されていた地点です。

08B 区では主に平安時代の集落跡を確認しました。

連吾川東岸の石岸遺跡では奈良時代末から平安時代前期にかけての土器が多数出土し、総柱の掘立柱建物もあったようです。

加原遺跡はそれよりも約 100 年後の集落遺跡です。

連吾川周辺は天正 3（1575）年の長篠・設楽原合戦場でもありましたが、それに関連する遺構は確認されませんでした。

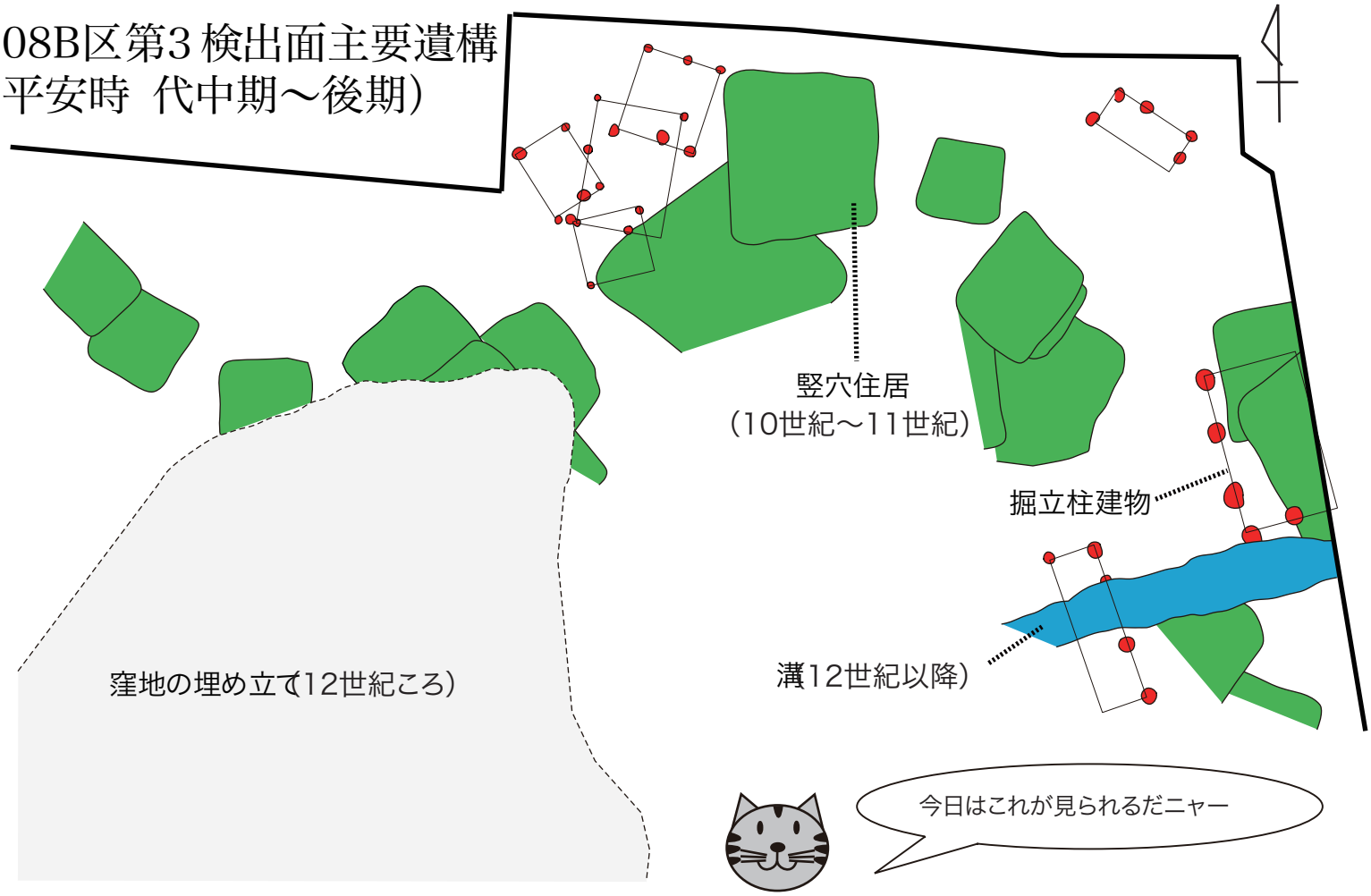


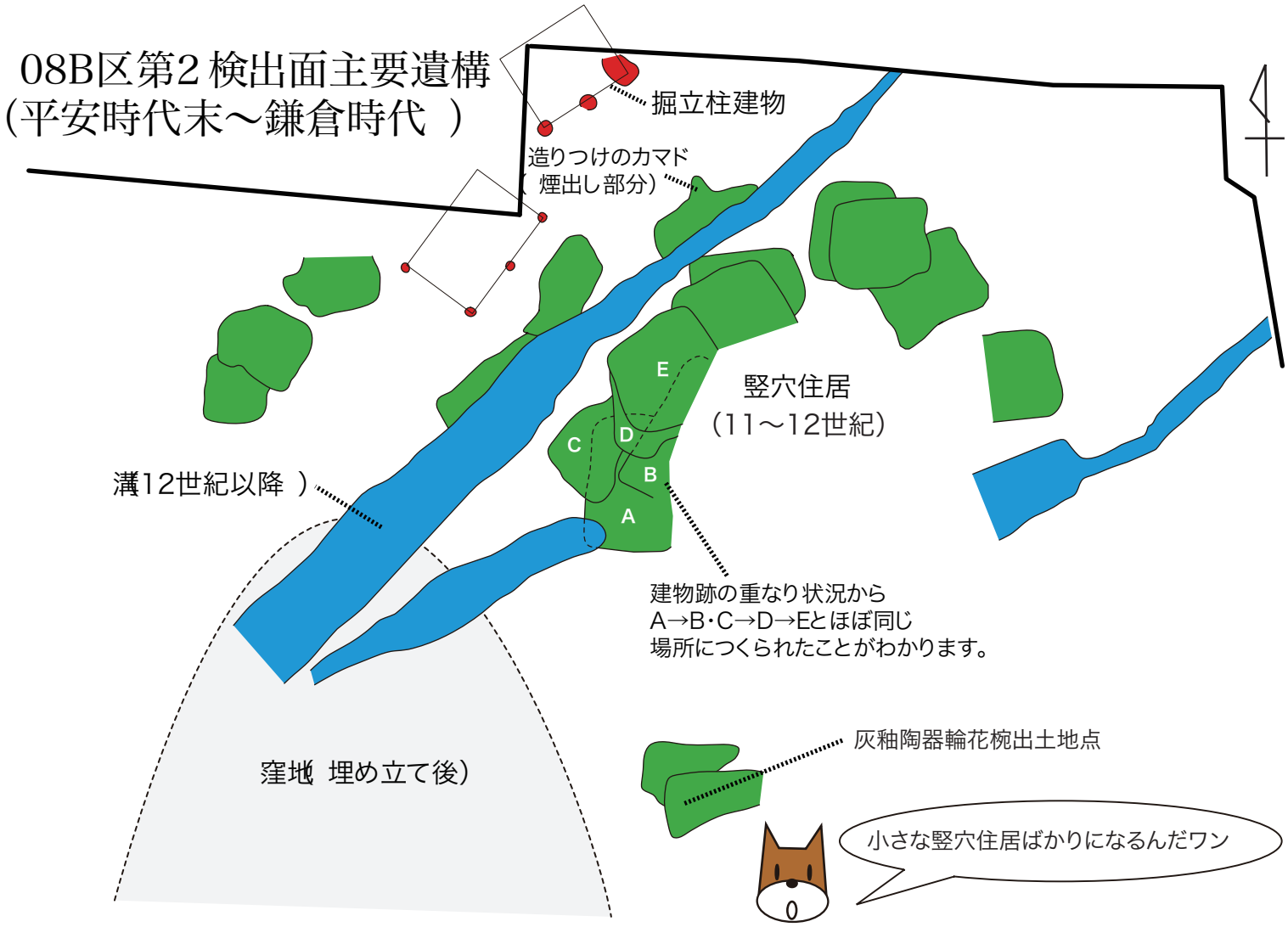
連吾川周辺の遺跡分布概念図

北側からみた加原遺 跡 08B 区（馬防柵方向をのぞむ ）

加原遺跡で確認された集落遺跡の時期は、設楽郡が設置され、中山間地域の開発が進んだ時代です。

窪地を埋めるなどして斜面地の造成がおこなわれた頃は「設楽荘」に含まれていたかもしれません。


08B区第3検出面主要遺構
(平安時 代中期～後期)
竪穴住居
(10世紀～11世紀)
掘立柱建物
溝12世紀以降)
窪地の埋め立て12世紀ころ)
今日はこれが見られるだニャー


08B区第2検出面主要遺構
(平安時代末～鎌倉時代)
掘立柱建物
造りつけのカマド
(煙出し部分)
竪穴住居
(11～12世紀)
E
D
C
B
A
溝12世紀以降)
建物跡の重なり状況から
A→B・C→D→Eとほぼ同じ
場所につくられたことがわかります。
窪地 埋め立て後)
灰釉陶器輪花椀出土地点
小さな竪穴住居ばかりになるんだワン

②出土した生活道具

加原遺跡では、主に平安時代の土器や陶器などが出土しました。種類は皿（さら）・椀（わん）・壺（つぼ）・甕（かめ）で、食器として使われていたものです。また縄文土器や古墳時代の土器も少しですが出土しています。

石器では石鏃（せきぞく）や石斧（せきふ）が出土しました。

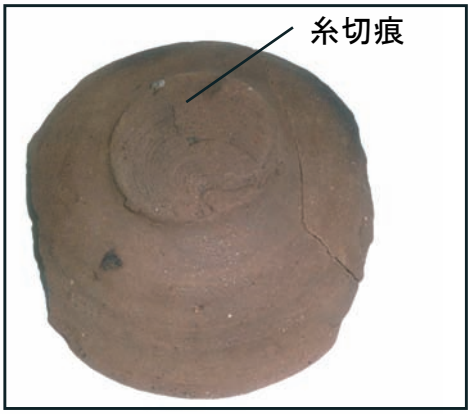
また鉄滓（てっさい）と呼ばれる鉄を作る時にできる鉄の溶けかすも多数出土しました。

これらの他に周辺の交流を物語るものとして信州産と思われる土師器が出土しています。

灰釉陶器（輪花椀：口縁に特徴）

皿・椀・鍋

須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器



信州産？土師器（底部）

縄文土器・石鏃・石斧

鉄滓（てっさい）

③用語の説明

・竪穴住居	穴を掘りこんでつくった半地下式の住居や倉庫です。
・壺	食べ物などを貯蔵しておくものです。
・甕	おもに煮炊きに使われる道具でよく吹きこぼれたあとが残っています。
・高杯	おもに食べ物を盛りつける器です。
・須恵器	古墳時代中頃から作られた硬い土器。名古屋市や豊田市などで多く作られた。
・灰釉陶器	平安時代前期（約1200年前）から中期（約1000年前）にかけて作られた土器。
・緑釉陶器	平安時代前期（約1200年前）に作られた土器。緑色の釉薬がかけられています。
・石鏃	石で作られた鏃です。材質に黒曜石やチャートなどがあります。
・石斧	石で作られた斧です。材質は片岩などがあります。